



子どもが自発的、意欲的に関われる ような環境の構成と、そこにおける 子どもの主体的な活動を大切にする こと。【生活と遊び・ゾーン】

私たち保育者は、

「自分の意志で、やってみたくこ
とを見つけ、興味を持った事に積
極的にチャレンジする。」

姿が何より大切だと考えています。

そのためにも、日常生活の中で
芽生えることも自身の興味や関心

(面白そう!・楽しそう!・なん

でだろう?・どうなってるの?・

不思議だなあ? など…)

を感じた瞬間の『気持ち』を出来
る限り実現する為にも、室内・屋
外ともに遊びが発展できる環境と
しての空間構成(ゾーン)を用意
する事で、こどもの『とことん楽
しむ!』気持ちを大切にしていま
す。



選択することで
遊びの幅が広がる



子どもの一人一人の発達について理解し、一人一人の特性に応じ、発達の課題に配慮して保育すること。

【一斉保育から選択制保育へ】

同じ年齢・同じ環境：

でも、一人ひとりの得意な事・苦手な事は必ず同じではありません。だからこそ一方的な保育者の提案を言われるままに一斉に取り組みばかりではなく、

『子どもみずから、自分の意思で課題や活動を決定し、最後までやり遂げ、それを認められることで自信につながる。』
という考えで、様々な場面で活動の選択肢を用意します。

例えば：お散歩で行きたい公園や歩きたい距離を自分たちで選んだり、制作活動なども複数のモデルを参考に自分のアイデアで制作活動を行ったり：

活動自体をいつも選択してやるばかりではなく、やる順序の選択をしてみたいのです。「一番やりたいことは？」次に「この間やらなかった中で一番やりたいことは？」というように、いつでも一番やってみたいことを選択します。

いつのまにか全部を経験していることになり、子ども自身主体的に活動できます。



子どもは多様な大人、子ども同士の体験から、社会をまなんでいくこと。

【シティズンシップ教育】

お散歩や園外活動など様々な場面で、自分たちが住んでいる地域を知り、様々な場所や人々と出会う機会があります。

消防署や郵便局、工事現場などで

働いている人を知り、興味関心を

持ったり、地域の人々と様々な関わりを持

つ事で、地域社会との繋がりが

深まっていきます。

そんな経験・体験が日常にある中で

社会のルールを学び、社会の一員で

ある事を知ります。

私たちの保育園には姉妹園があります。

いつもと違った保育園に行き、

いつもと違った先生に出会い、

新しく出会うお友達と交流することで

たくさんのかんじを感ずる機会もあります。



いつもそばにいるから
大丈夫だよ!



保育者は、子どもが自発的、主体的、
多様な人との関係の中で活動するため
に、いつでも駆け込める
愛着（見守る）という存在でいること。

○子どもたちの無限の力

をひきだす!

○子どもたちの可能性を

信じて見守る!

日々の保育を行っていく中で、

私たち保育者は 子どもたちの

挑戦する力を大切にしています。

その中で、

『自分のやりたいことが思いつ

きりできる』

『興味がある事に食欲にチャレ

ンジする』

事を出来るように、子どもたち

が困った時、危ない時、不安な

時、すぐに気持ちを受け止めて

あげられる『安心基地』の様な

存在である事を目指します。



子ども同士の中で刺激しあうことから、 様々な年齢とのかかわりを保障すること。 (見て、真似して、教わって、教えて、 一緒にやって) 【異年齢保育】

私たちの保育園では、

年少児・年中児・年長児が。それぞ

れ所属するクラスは違っていますが、

同じお部屋(空間)で一緒に生活

しています。

年少児や年中児は、年長児のお友達

と一緒に遊ぶことで、たくさんの

刺激を受け、多くのことを学び、

遊びの幅も広がります。

又、回りに困っているおともだちが

いる時には年長児を中心に、

優しく教え、手を差し伸べて

助けてくれます。

自分の目標となり、憧れの姿となる

「こんな人になりたい」

「こんなことをやってみよう」

と思うモデルがたくさん見つかる

集団を目指して『たてわりではない

異年齢保育』を行っています。



子どもは、職員のチームによって、
多様な社会とのかかわりを学習すること。

【チーム保育】

私たち保育者も子どもたちと同じで、一人ひとり得意な事・苦手な事があります。

一人の担任だけでは子どもたちに伝えてあげられる事や、体験させてあげられる選択肢も狭くなってしまいます。

それが複数の保育者が力を合わせ、自分の得意分野を活かし、苦手分野は仲間にも助けられ：

一人では出来ない事をチームの力で解決し、子どもたちにとっても、多くの大人と日常的な関わりを持つ事を大切にするために、チームティーチングを大切にしています。



どんな時も、みんな一緒
それがおひさまの仲間!!

子どもを、男女、しょうがい、年齢による
刷り込みを持たないこと。

【インクルージョン保育】

私たちの保育園では、日常的に

年齢・男の子・女の子・しょうがい

による刷り込み（思い込み）を持

たない保育を行います。

*インクルージョン保育とは、子ど

もたちはみんな一緒という考え方を

基本に、発達や年連、しょうがいを、

個人差やそれぞれの特性と捉え、そ

れぞれに必要な支援を行なっていこ

うというものです。

それには、

出来ない事は、出来るおともだちが

まずやってあげる事で、出来るモデ

ルとなる！

困っているおともだちがいるときは、

みんなで助け合う！

『自分らしさ』を大切にしています



子どもが自立していくこと、
自己の意思を表明しようとすることを
保育者は妨げてはいけない。

[やってあげる保育から見守る保育へ]

子どもたちの「やってみたい！」

と思う気持ちを、私たち保育者は大切にしてい
ます。

日々の活動も、子どもが自ら考えながら

あそび（学び）を发展させていきます。

時にはみんなが納得できるまで

何日もかけて話し合う場面も…

おともだちとケンカになってしまった時にも、

自分たちでとことん話し合いながら…

でもうまくいかない時には

誰かが仲裁にはいってくれたり…

クッキングの場面でも、必要な材料から

作り方まで自分たちで調べて、自分たちで

買い物にも行きます。

私たち保育者の役割はあくまでも子どもの

自立を助けるアシスタント的立場です。



共に遊び、共に楽しむ!!
『playful!!』



保育者は、子どもに奉仕をしたり、世話を
する人ではなく、一人の人格を持った
人として子どもと共に生活すること。

私たち保育者も、

子どもと一緒にあって、

遊び、考え、様々な経験

をする事で、色々なこと

を学んでいきます。

そのためには、まず私た

ち保育者が思いっきり保

育を楽しむことを大切に

しています。

そんな中で、子どもたち

の夢をかなえる応援者で

あったり、子どもの夢が

いつの間にか保育者の夢

になっている事も…

子どもと一緒に

『プレイフル!』

な毎日を創造します。

【意見表明】乳幼児教育基本方針に則り、 保育を展開しなければならない。

「乳幼児教育方針 10カ条」

1. すべての国民は、生まれながらにして教育される権利がある。
2. 乳幼児に対する教育は、子どもの最善の利益が最も大切にされることが優先課題である。
3. すべての乳幼児は、その発達において、今を大切にされ、自分らしく生きる権利がある。
4. 乳幼児は、人格、才能並びに精神的及び身体的な能力をその可能な最大限度まで発達が保障される権利がある。
5. 乳幼児期は、生涯にわたっての教育の基礎を培う最も大切な時期であり、決して学校教育の準備期としての教育であってはならない。
ただし、人生の出発点をより強固にするために、その後の初等教育との接続を大切にすることが必要である。
6. 乳幼児期は、人として生きていくための意欲、探求心、社会の一員である意識、コミュニケーション能力、身体的機能の調和的発達、自律と自立などを身につけていくことが課題である。
7. 乳幼児期における教育は、環境を通して行うことを基本とし、教育のために乳幼児にとってのよい環境を用意しなければならない。
8. 乳幼児は、自分に影響する事項について自由に自己の意思を表明することができ、自分に関係する事項については、その策定において参画することができる。
9. すべての乳幼児においての尊厳を大切にされ、自立を妨げることを排除する。
10. ここでいう乳幼児とは、生まれてからおおむね8歳までと定義する。